

❀ はたちの主張 ❀

はたちの主張

本日、この京丹後市で20歳という人生の節目の年に「はたちを祝う式典」の日を無事に迎えることができたことを大変嬉しく思います。これもひとえに、この地に生まれ多くの困難を乗り越えて共に成長してきた仲間たち、毎日熱く丁寧に指導頂いた先生方、私たちの成長を温かく見守ってくださった地域の方々、そして、20年間どんなときも私たちの味方でいてくれて、今日まで大切に育ててくれた家族、皆さんの支えがありました。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

私たちが中学校3年生になり、卒業を間近に控えていた当時、新型コロナウイルスが流行し、卒業式はマスクを着用しながら出席したことを昨日のこのように覚えていきます。それからの日々は、経験したことのないことばかりで、まるで出口の無いトンネルの中を走っているようでした。そんな生活を送る中で、私は目の前の小さな幸せにも感謝を忘れず生きていくことの大切さに気付かされました。これから私たちにどんな未来が待っているのかは想像もつきません。だからこそ、今、目の前にある小さな幸せを噛みしめて生きていきます。

私の将来の夢は教師になることです。私がこの夢を志したのは2人の先生との出会いがきっかけです。1人目は、中学2・3年生の時の担任の先生です。その先生は「明」という字がぴったりの先生で、常に私たちを明るく笑顔で指導してくれました。一方で、時に少し調子に乗り過ぎる私たちのクラスを厳しく叱ってくれる先生でもありました。常に私たち一人一人に寄り添い、進むべき道を示してくれる先生でした。

2人目は、中学校の部活の顧問の先生です。私は中学時代陸上競技部に所属していました。その顧問の先生はとにかく熱い先生で、練習でも試合でも声を枯らして応援してくれました。どんなに広い会場でもその先生の声ははつきりと聞こえました。そんな熱い先生の元で部活に励むことで、私は陸上競技が大好きになり、20歳になった今でも陸上を続けています。いつも熱い指導で生徒の背中を強く押してくれる先生でした。

2人をはじめとするさまざまな人との出会いが、私を成長させ、今日まで支えてくれました。私も生徒に「先生と出会えて良かった」と感じてもらえるような教師を目指していきます。

私たちは、今日まで20年間生きてきた中で、多くの方々に出会い、支えられ今日を迎えることができました。これから先が見えず道に迷いそうになった時には、その出会いや経験を人生のサーチライトとして、進むべき道を照らしながら歩んでいきます。

令和7年3月16日 友松 悠人